

平成 30 年度 自己点検・評価報告書の評価結果に対する総括

1 自己点検・評価活動と理念・目的、教育目標等の達成状況

本学の前身は、1932（昭和 7）年に創立された鹿児島高等商業学校である。私学の商・経高等教育機関として九州で最初に創立され、86 年の伝統の中で、南九州随一の社会・人文科学と芸術を教育研究する総合大学として、「東西文化の融合」と「地域社会への貢献」という建学の精神を現在に至るまで一貫して堅持してきた。

本学は、基本理念として「国際的視野でものを考え、地域社会に貢献する人材」及び「地域に暮らす人々の生活を生涯支え続けるための人材」の育成を掲げている。

本学では、この理念の実現のため、「津曲学園中期ビジョン 2017～2021」に基づき、各部署・関係委員会等が設定した各種事業の目標を達成すべく、年度ごとに「具体的取組」を実施している。

本学の教育目標は、この理念を基に、各学部、学科・研究科において「意思形成能力」と「コミュニケーション能力」を向上させる教育を行い、「高い思考力と豊かな表現力」を持った人材として社会に輩出することにある。

そのため、本学では建学の理念・目的を基に、各方針、教育内容やその方法等を構築して、各学部・研究科ともに学生に対する教育、研究指導を実施している。

特に、学生の社会的・職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を重視し、「アクティブ・ラーニングの全学的な展開」や「SA・TA の積極的な活用」など、教育方法の改善や学生支援方針に基づいたきめ細やかな修学支援、生活支援、進路支援を行っている。

また、「鹿児島国際大学国際化ビジョン」や「鹿児島国際大学産学官地域連携推進ビジョン」に基づいて、学外機関、市町村、自治体等と連携し地域社会のニーズ等に対応したフィールドワーク、国内外で実施しているインターンシップ、留学生の積極的な地域交流活動への参加など、学生が実際に体験・体感する活動によって学びの意欲を高めようとしている。

学位授与方針に定めた能力獲得の検証は、アセスメント・ポリシーを基に点検・評価し、大学全体で改善・向上に尽力しており、本学の現状は、理念・目的、教育目標を概ね達成していると考えられる。

今後も、各種チェックリストを用いてカリキュラム全体の検証を行うとともに、アセスメント・ポリシーに基づいた点検・評価を絶えず行うことにより、質を高め、より高い水準を目指して、本学の理念が達成できるよう努力を重ねてゆく。

大学の運営は、「大学運営に関する方針」に基づいて、「津曲学園中期ビジョン 2017～2021」の実現に向けて事務組織の編制、予算管理及び資質向上を図るための取組みを推進するとともに、委託事業や連携自治体等からの寄附講座など、学外から資金を受け入れるための積極

的な取組みを実施している。

内部質保証に関しては、全学的な方針を明示し、学長の指示のもと自己点検・評価運営委員会が自己点検・評価活動のマネジメントを行っている。また、6つの自己点検・評価実施部会は、各部局・関係委員会による自己点検・評価の適切性を検証するとともに、自己点検・評価運営委員会での総括を踏まえ、各部局・関係委員会に対し、改善・向上に向けた取組みの指導をしており、自己点検・評価を活用したPDCAサイクルによる、内部質保証を担保するシステムが構築されている。この内部質保証システムを適切に機能させるために、自己点検・評価運営委員会は、必要に応じて学外者の出席を求め、意見を聴取し、事業の適切性の検証を行い、改善に繋げている。

この他、COC外部評価委員による外部評価会議の開催や、インターンシップ・フィールドワーク委員会外部評価委員による外部評価の実施など、学外者による適切性の検証が行われている。

2 総 評

自己点検・評価実施部会評価結果の総平均値：3.66

平成30年度自己点検・評価実施部会評価結果については、すべての点検・評価項目における評定平均が、平成29年度の3.45から3.66へと0.21ポイント改善されるとともに、基準9（社会連携・社会貢献）を除くすべての基準において改善が見られた。

平成30年度は、基準ごとの新しい施策として、基準4（教育課程・学習成果）における外国人留学生対象のインターンシップ実施、基準5（学生の受け入れ）におけるHONORS特待生入学試験（検定資格分野）の変更、学費等減免制度の拡充・新設、基準7（学生支援）におけるHONORS特待生入学試験に準じた検定資格取得者に対する授業料減免制度の制定、災害復興ボランティア活動への助成要綱の制定を実施している。

また、「鹿児島国際大学国際化ビジョン」や「鹿児島国際大学産学官地域連携推進ビジョン」に基づき、海外インターンシップ・海外オープンキャンパスなど地域特性を生かした国際交流事業や産・学・官・地域が一体となった連携事業、学生と地域住民との交流等、様々な取組みを実施している。

このように本学では、中期ビジョンの実現に向けて、全般的な取組みが進んでおり、評価結果において一定の成果を上げている。

一方、大学全体の入学定員及び収容定員の充足率の管理という点で、国際文化学科における収容定員関係学則変更届出書の提出や、様々な学生募集活動を実施しているものの、認証評価機関からの指摘事項に対する課題が残っている。また、防火訓練マニュアル等の総合的な見直し、危機管理マニュアル等の作成など、「津曲学園中期ビジョン 2017～2021」が定める目標の達成に向け、早急な対応が求められる。

3 大学基準別評価結果及び意見

(1) 基準1 理念・目的

自己点検・評価実施部会評価結果の平均値：4.00

大学の理念・目的を適切に設定・明示するとともに、大学として将来を見据えた「津曲学園中期ビジョン2017～2021」を設定し、「基本的方向」と「具体的取組」を定めている。また、新任教員説明会や新入生オリエンテーションなど様々な機会をとおして、共通理解を深められるように広く周知している。

さらに、大学の理念・目的を踏まえ、各学部、学科・研究科の目的を適切に設定しているほか、「鹿児島国際大学国際化ビジョン」や「鹿児島国際大学産学官地域連携推進ビジョン」を定め、地域が求める人材育成やグローバル時代に対応する教育力と研究力の向上に取り組んでいることを高く評価する。

(2) 基準2 内部質保証

自己点検・評価実施部会評価結果の平均値：3.67

内部質保証のための全学的な方針を明示し、内部質保証の推進に責任を負う全学的な組織として自己点検・評価運営委員会を位置づけている。

組織のメンバー構成に学外者の出席を求め、意見を聴取し、反映させる仕組みを構築するなどし、改善・向上に向けた取組みを実施している。

また、部局間で共有できる情報ファイルの「集約・管理・共同利用」体制を構築し、公表する情報の正確性、信頼性、更新など点検・評価における客観性、妥当性を確保した取組みを実施していることを評価する。

今後、集約されたデータをより一層活用し、教育課程体系の検証や教育の質の保証・向上が実現することを期待する。

(3) 基準3 教育研究組織

自己点検・評価実施部会評価結果の平均値：4.00

各学部、学科・研究科の教育・研究を補完し支える附置地域総合研究所等の教育研究組織が本学の理念・目的に適合している。また、学問の動向、社会的要請、大学を取り巻く国際的環境等への配慮を適切に行っている。

また、教授会や関係委員会等が取り組んだ自己点検・評価活動について、6つの自己点検・評価実施部会の1つである「教育研究部会」は、大学の理念・目的と教育研究組織の適合性を定期的に点検・評価している。この点を高く評価する。

(4) 基準4 教育課程・学習成果

自己点検・評価実施部会評価結果の平均値：3.86

授与する学位ごとにポリシーを定め公表するとともに、「順次性のある授業科目の体系的・構造的な配置」「効果的に教育を行う措置」「学習成果を測定するための評価指標の整備」など教育課程・学習成果の把握と着実な改善に向けた取組みが実行されている。

特に、外国人留学生対象のインターンシップを含め、学生の社会的・職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育に積極的に取り組んでいる点を評価する。

(5) 基準5 学生の受け入れ

自己点検・評価実施部会評価結果の平均値：3.33

入学定員充足率の改善については、「国際文化学科の収容定員関係学則変更届出書の提出」「HONORS 特待生入学試験（検定資格分野）の変更」「学費等減免制度の拡充・新設」等の取組みにより、一定の改善が見られる。

また、「国際交流アンバサダー（友好大使）の委嘱」や大連での「卒業留学生大連交流会の開催」など、学生募集に関する新たな試みが着手されたことを評価する。

「津曲学園中期ビジョン2017～2021」が掲げる目標達成に向けて、2021年度大学入学者選抜試験制度に向けた検討を早急に行うとともに、新たな学生募集戦略を構築し、「定員充足率の更なる改善」と「休退学者の削減」の実現が求められる。

(6) 基準6 教員・教員組織

自己点検・評価実施部会評価結果の平均値：3.71

教員・教員組織の編制方針を定め公表するとともに、大学設置基準に定められた基準を大学全体で上回る教員を配置している。しかし、国際文化学部音楽学科において、専任教員1名の退職に伴い平成30年3月31日付で大学設置基準上の必要専任教員数が1名不足する事態となっている。

教員の募集、採用、昇任については、不足教員の採用を含め、人事に関する発議・選考・承認等が関連規程に基づき適切に行われている。また、教員の資質向上に関する取組みについては、「FDセミナー」「FD講演会の開催」「公開授業科目の自動登録システム」「教員提案制度の実施」など改善・向上を図っていることを評価する。

次年度以降、「学校法人津曲学園教職員人材育成基本方針」に基づき、「教員の教育研究の適切な評価制度の導入の必要性」について、検討を行うことを期待する。

(7) 基準7 学生支援

自己点検・評価実施部会評価結果の平均値：3.42

学生支援に関する方針及び障がいのある学生の受入れ及び支援に関する基本方針に基づいて、各委員会で学生支援事業について協議し、新たにHONORS特待生入学試験に準じた検

定資格取得者に対する「授業料減免制度」「災害復興ボランティア活動への助成要綱」の制定など様々な支援が実施されている。

また、学生支援に関する自己点検・評価が実施され、その結果に基づいた学生支援の改善・向上に向けた取り組みが実施されていることを評価する。

英語圏留学講座、日本語課外教室は一定の評価はできる。しかし、内容については中期ビジョンの達成にむけ、再検討が望まれる。

【参考：自己点検・評価実施部会評価が「2」以下の項目】

津曲学園中期ビジョン

2-I-① 「国際ビジネスとグローバル英語プログラム」の推進

2-I-② 外国語による授業及び教育環境の充実

4-I-⑦ 外国人留学生の支援事業の充実

(8) 基準8 教育研究等環境

自己点検・評価実施部会評価結果の平均値：3.74

教育研究等環境に関する方針が策定され、大学ホームページ等で公表されている。

教育研究活動に必要な施設及び設備並びに支援する環境や条件は、大学施設の利便性を向上するために、「バリアフリー化への対応」など施設整備が行われている。また、外部資金獲得のための支援が実施されていることを評価する。

しかし、2年連続で課題として挙げられた「出版助成制度」「在宅研修制度の見直し」については、早急に取り組むこと。

【参考：自己点検・評価実施部会評価が「2」以下の項目】

大学基準協会認証評価基準

○研究活動を促進させるための条件の整備

(9) 基準9 社会連携・社会貢献

自己点検・評価実施部会評価結果の平均値：3.27

「鹿児島国際大学産学官地域連携推進ビジョン」に基づいて、学外機関、地域社会と連携し「地域社会のニーズ等に対応したフィールドワーク」や「京都女子大学との包括的連携」を実施し、大学ホームページや広報誌「みなみ風」に掲載している。

また、COC 外部評価委員による外部評価会議やインターンシップ・フィールドワーク委員会外部評価委員による外部評価を実施し、適切性の検証ができていることを評価する。

なお、COC 事業終了後の事業継続に向けた体制づくりと、新たな「鹿児島国際大学産学官地域連携推進ビジョン」の策定を期待する。

【参考：自己点検・評価実施部会評価が「2」以下の項目】

津曲学園中期ビジョン

2-I-① 「国際ビジネスとグローバル英語プログラム」の推進

2-I-② 外国語による授業及び教育環境の充実

4-I-⑦ 外国人留学生の支援事業の充実

(10) 基準 10 大学運営・財務

① 大学運営

自己点検・評価実施部会評価結果の平均値：3.47

大学運営に関する方針が策定され、方針に基づいた事務組織の整備、教職員の資質向上を図る施策が実施されている。また、「学校法人津曲学園教職員人材育成基本方針」を策定したことを評価する。

なお、「防火訓練マニュアル等の総合的な見直し」「危機管理マニュアルの作成」などの課題に着手すること。特に「危機管理マニュアルの作成」は、早急な策定が求められる。

【参考：自己点検・評価実施部会評価が「2」以下の項目】

大学基準協会認証評価基準

○適切な大学運営のための組織の整備

○適切な危機管理対策の実施

津曲学園中期ビジョン

8-I-③ 防災及び危機管理に配慮した運営の実施

8-II-② 教職員の適正配置や事務組織の統合等による人件費削減の実施

② 財務

自己点検・評価実施部会評価結果の平均値：3.77

「津曲学園中期ビジョン 2017～2021」において財務に関する数値目標を定め、教育研究の十分な遂行と財政確保の両立を図っている。

また、「選択定年制」の抜本的な見直し、寄附講座や寄附研究部門における「プロジェクト研究」「受託研究」を積極的に実施していることを評価する。

今後、専任事務職員と非正規雇用者の適正配置等についての検討を期待する。

【参考：自己点検・評価実施部会評価が「2」以下の項目】

津曲学園中期ビジョン

8-II-② 教職員の適正配置や事務組織の統合等による人件費削減の実施

【参考】

自己点検・評価数値評価基準

数値	達成度	
4	100～90%	方針に基づいた行動が行われ、理念・目的・教育目標の達成度が極めて高い。
3	89～80%	方針に基づいた行動が行われ、理念・目的・教育目標も達成されている。
2	79～60%	概ね、方針に基づいた行動が行われ、理念・目的・教育目標もほぼ達成されている。
1	59～50%	方針に基づいた活動や理念・目的・教育目標の達成がやや不十分である。
0	49%以下	方針に基づいた活動や理念・目的・教育目標の達成が不十分であり、改善すべき点が多い。